

ウインウインの関係

登校日ではありませんが、夏休みの午前中、希望者が北中に足を運んで学習に取り組む日を設定しました。もちろんスクールバスも運行します。その日には、中学生のサポート役として、旧三校と北中の卒業生を中心とした高校生が来てくれることになりました。

中三の皆さんにとっては、夏休みが一つのターニングポイントですよ。夏を制する者は、受験をも制す」などという言葉もよく耳にします。塾の夏期講習に通ったり、市民図書館の自習室に足を運んだりして、いつもと違う環境で学習に取り組もうとしている人も多いのではないのでしょうか。したがって、三年生については、計画に余裕のある人だけでよいと思います。場所の違いこそあれ、今大切なのは自分で考えて学習に取り組む、努力をつい重ねることなのですから。

ただ、違う意味での勉強になるかもしれませんね。つまり、高校という場所で学んでいる先輩たちから、高校の勉強や生活についての情報を得られることが期待できます。体験入学や見学会で得られる情報とは違う生の声が聞けることでしよう。

サポートに来てくれるのは、東濃地区にある普通科高校に通う生徒たちです。普通高校と言っても、皆同じわけではありません。高校の数だけ違いがあるはずですので、それを実際に高校生から聞くことができるチャンスはめったにないことだと思いますよ。勉強以外の高校生活についても、面白い話が聞けるかもしれませんよ。

一、二年の生徒にとっては、ただ単に勉強を教えてもらうということだけではなく、より効果的な勉強方法のヒントをもらえるチャンスになるかもしれません。これは北中が目指している「学力向上」の実現にもつながります。今の自分の勉強方法が最も良いと思わないで、謙虚に学んでみてはどうでしょうか。高校生たちも数年前は、皆さんと同じ中学生でした。勉強していてわからないことがあったり、勉強方法で悩んだりしたはずです。彼らはそこから大きく成長して、現在高等学校で頑張っています。レベルの高いことを学んでいる人たちが、どのよう頑張ってきたかについて聞けるチャンスだと思います。

中学生のために高校生が来てくれる、そう思いがちですが、実はそれだけではありません。高校生は確かに中学生に教えてくれますが、教えることで自分たちの理解を深めたり、教える技術を高めたりするのです。

北中に来る高校生は、将来教育に関する職業に就く可能性が十分あります。実際に就くか就かないかは別として、高校生たちも勉強するために足を運ぶのです。中学生と高校生が「ウインウインの関係」で取り組めると言えますね。